

④ 被災地復興から持続可能な助け合い送迎への移行を目指した、住民主体の仕組みづくり

メンバー

活動目的

実施者：特定非営利活動法人 移動支援Rera
連携団体：石巻市、東松島市、女川町、NPO法人 いわて地域づくり支援センター、NPO法人 地星社、NPO法人 全国移動サービスネットワーク、(一社)日本カーシェアリング協会、他

移動手段がなく外出を諦めている住民が気軽に外出できる持続的な仕組みを生み出すことによって、地域の高齢者や障がい者等、復興に取り残された要援護者が前向きに暮らしを楽しみ心身の健康を維持できる、希望の持てるまちを作る。

対象地域：
宮城県石巻地域（石巻市、東松島市、女川町）
（人口）約188,500人 **（高齢化率）**31%
2011年の東日本大震災では、この地域で約6,000人の死者・不明者（震災全体の1/3）、6,000台の車両流失。



取り組み内容

キーワード：助け合い送迎／住民主体／外出による健康維持／持続可能な仕組みづくり

- ① 宮城県石巻地域の移動困難者の実態調査
- ② 調査の分析と課題の洗い出し・共有
- ③ 持続可能な乗り合い送迎のシステム開発と実証実験

2020年度の活動実績

2020年度はコロナウイルス感染拡大の影響により、住民さんが集まる集会等も自粛となり、②の調査の分析と課題の洗い出し・共有を実施出来ない状況となってしまった。このことから事業期間の延長申請を行い、計画の遅れから一部事業内容を変更し2021年度に改めて実施していく予定となっている。日常の送迎においてはコロナウイルス感染対策を徹底しながら、安全な移動手段の提供に努めた。



取り組みが地域に与えた影響

1年目は北上、桃生、山下の3地区に対して移動困難者の実態調査を実施した。これまで自分事として移動問題について考えたり、皆で情報を共有するといった場がなかったであろう地域にアンケート調査を実施したことにより、住民の移動についての問題や住んでいる地域の課題を知るきっかけになったり、自分事としての問題意識を高める事につながった。2年目の取り組みとして、移動に関する問題意識の高まりから住民自らが解決に向けて取り組む機運が高まれば送迎の仕組みづくり等において支援していく計画であったが、勉強会を含めた取り組みはコロナ禍にあり中止となってしまった。しかしながら各地域において移動のニーズが無くなる事はないので、期間が開いてしまったものの継続して移動問題と解決策を共に考えていける場作りを行っていきたい。住民さんの移動に関する問題意識も消えたわけではない。

取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

もともと地域内を支援しているキーパーソンや、民生委員といった組織と繋がり相談をすすめる事で、実態調査は一定の信頼のもと、多くの回答を得る事に成功したと考える。

専門家コメント_福島大学

- ・震災から活動を続けてきた功績は大きい。送迎を必要とする方と助ける方が「折り合う」なかで持続可能となる形態である。しかし、取り組みが長くなるほど双方が分離してしまうことがある。新たな「折り合い」をつくる機会がいまなのかもしれない。
- ・石巻市を舞台に、すぐにでも手を差し伸べなければ、という生存権に関わる移動を担ってきた。ニッチな需要があるので、小さく継続できるような、できる時にできる人ができる事をの精神で取り組む姿勢を継続してほしい。